

令和元年度特別展

武田美通・鉄の造形 全30作品展

戦死者たちからのメッセージ

2019年 **11月1日**(金) ~ **12月15日**(日)
午前9時~午後5時 (特別展のみ無料)

沖縄県平和祈念資料館
1階企画展示室

残された数秒の母子のいのち



歌い継ぎ、語り継ぎゆかん
沖縄戦の地獄を

鉄の造形作家 武田美通

1935年11月19日—2016年5月15日
享年80歳

1935年北海道小樽市生まれ。皇国の少年として育ち、国民学校(小学校)一年生の時太平洋戦争に突入、四年・10歳で敗戦。早稲田大学で社会学を学び日本経済新聞の記者として10年勤務。以後テレビ東京に転身。海外取材を含め36年間のジャーナリスト生活だった。

とりわけ少年期からのテーマ「戦争とは・・国家とは・・軍隊とは・・」のもとにアメリカ海兵隊や自衛隊などの取材に力を入れた。60歳を前に造形作家の道を進む。

当初は、音楽家や鳥、花などの作品づくりに取り組んだが、2002年から亡くなる2016年まで15年に及ぶ「戦死者たちからのメッセージ」制作に取り組む。遺された作品は次世代への力強いメッセージである。



主催) **沖縄県平和祈念資料館** 沖縄県糸満市摩文仁614-1 電話 098-997-3844
協力) **武田美通・鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」を広める会**

サイパン、沖縄、満州で「自死」していった母子たち、被ばくした人
たち、敵の砲弾でなく、飢餓地獄の中で死んだ兵士たち
いまは物言えぬ人々に代わって、その切なる思いを渾身の力で表した
鉄の造形作家・武田美通の珠玉の30作・全作品展

被ばく、そして黒い雨が...



水ヲクダサイ



希望

一瞬の閃光が少年と犬を貫いた



白骨街道



靴を食う兵士



帰還兵の問いかけ

あの日から74年。
雨ざらしだった白骨の我が身に、
敢えて当時の兵装をまとい、長い歳月をかけて
ようやく故国に帰ってまいりました。
召集令状一枚で戦場に駆り出され、
飢えと病の果てに密林の奥深くで
死んでいった私たちの最期の願いは
届いているのでしょうか。
あの戦争は何だったのか。
しっかりと検証されたのでしょうか。
私たちの死はムダではなかったのでしょうか。
それを確かめたくて帰ってまいりました。



自決する兵士

惠泉女学園大学・花と平和のミュージアムの協力でミュージアム内にて保管・展示